



全校朝会のはじめに、「いつもの節分は2月3日なのに今年は2日なのだそうです。どうしてなのでしょう。調べてみるといいですね。」と話したら、実際に調べてきて教えてくれる子がたくさんいました。子どもは、「知りたがり・わかりたがり」の勉強家です。

「梅干し」に続いては 「丸刈り」のはなし

前回の全校朝会で、「自分で考える」ときのヒントとして「梅干し」の話をしました。今週の全校朝会ではもう1つ、「丸刈り」という話をしました。

その学校は、校長先生がずっと前（校長先生になるずっと前）に、勤めた学校の話です。その学校は、小学校と中学校がくっついた学校でした。

「丸刈り」とは、高校野球などのスポーツをする人がよくやっている、マンガのカツオくんのように短く髪を刈り上げることです。今は、たくさんの中学生が、短めですが丸刈りではない髪型の子もいますね。

その中学校は、男の子は「全員、丸刈り」というきまりだったのです。そこの中学生は、真剣に話し合いました。「髪を少し伸ばしたい」という子もいれば、「なぜ、髪型が決められているのだろう？きつと理由があるはずだ！」という子。ある子は、「スポーツをするのに邪魔だからではないか。」とか、またある子は「自由もよいけれど自由にしたらどんどん格好ばかり気にする人が出て来るのではないか。そうなれば勉強に真剣になれない。それは、自分達のためになるのだろうか。」とか「おしゃれをするのは、自分でお金を稼いで生活する大人になってからでよいのではないのか。」などなど。さすがは、中学生、いろいろな点から考えることができるのですね。

そうやって、生徒全員で話し合った結果、「ちゃんと勉強や運動に集中できるように」とか「おしゃれをやり過ぎないように」など、「自由と言っても『あんまり』にならないように気をつけるので」と自分たちで約束を考えて、「髪型を自由にする」と先生方やおうちの方々をお願いしたのだそうです。先生方やおうちの方々は、生徒の真剣さを分かって、「いいですよ」となったそうです。

それから、何年かしたころ、その学校にくっついている小学校に先生が転勤しました。5年生を担当していました。1年経とうとしたころ、先生のところ、中学3年生の応援団長さんが来て言うのです。「先生、このままではダメだ。そう思いませんか。（??）。後輩たちは、先輩達から受け継いできた自由を勘違いしている。（??）分かってない！」

と、怒って言うのです。大きな体の応援団長でした。聞いて見ると後輩達の服装や髪型が、少しずつ派手になってきたというのです。大きな絵が透けるようなTシャツや真っ赤なTシャツを中に着たり、女の子のピンが大きくなったりとか。「行き過ぎ。あんまりではないか。」「部活動にも真剣さがたりなくなってきた」「これでは、先輩が、先生方やおうちの方に認めてもらったときの、約束が、受け継がれていない。」と言います。とうとう、3年生が、全校生徒を集めて、自分たちで話し合いを始めました。「自由とはどういうものか」、「何でもかんでも好き勝手によいのか」、「やってよいかどうか自分で考えることができるから自由。できないなら、自由はやめよう！」と話し合いました。本当の話だからすごいのです。自分達のことを、しかも、よくないことでもこうして真剣に考えたのです。中学生ってすごいです。そして、「髪型自由」をお願いしよう。でも、『あんまり』にならないようにちゃんと守れるのか！」などを毎年、生徒会総会で話し合うことにしたそうです。

＜次頁につづく＞

このすごい中学生の話は

みなさんの先輩である 城内中学校 の中学生の話です

全校朝会での話は続きます。

この話は、子ども達が自分達で話し合っ「自由を認めてもらった」というだけの話ではないのです。それだけではなくて、むしろ逆に、自分達で、「このままでいいのか」と行動を振り返り、自分達で「待った！」をかけたという話なのです。

「梅干し」の話では、自分で自分に「待った」をかけられず、梅干しが最後にはウイナーや唐揚げに変わっていきました。でも、中学生は、自分達で「待った」をかけました。先生方に言われる前に。自分達によくないところに気がついて。そして、よい学校にしようと思って。中学生はすごいですね。

そして、このすごい中学生達の話は、……。このなかで城内から来ている子がいますね（子ども達の手が上がりました）。ちょっと前までは、城内に中学校がありました。今は種市中学校と合わさりましたが。この中学生の話は、みなさんの先輩である、その城内中学校の中学生の話です。

みなさんにもできると思うのです。自分で自分をコントロールし、自分達の行動がよくないところは話し合っ「待った」をかける。自分で考えること、自分達でよりよい学校を創っていくことを。すばらし先輩達の後輩なのですから。

子ども達には、「自分で考えられるようになろう」と話しています。そして、その先、自分で考え判断し、自分をコントロールしたり行動を正したりしていける人になってほしいと思います。そのようなことを身につけた人を“大人”と言うのだと思います。人は急には大人になりません。だからこそ、今から、大人になる練習をしなければならないと考えています。

6年生のみなさんへ

今回の話の中の中学生は、誰かが声を出し、友達を集め、そして全校を集め、「自分で考える」を超えて、「自分達で」考えました。「みんな」のために。中学生になると、それくらい考える力や行動する力がつきます。カッコいいです。頼もしいです。6年生のみなさんは、春から中学生になります。みなさんも、こういう力をつけた中学生になっていくのです。楽しみです。

「話を聞く子ども達になったなあ」

最後の全校朝会でした

朝会が終わった後、七十刈先生が、「ずいぶんよく聞いていましたね。聞く子ども達になりましたねー。」とつぶやかれました。子ども達が聞いてくれますから、こちらもつい長くもなりますし、少々難しい話もしたくなってしまいました。それでも、子ども達は聞いてくれました。今年度最後の全校朝会でした。よく聞いてくれる子ども達に、「感謝」ですし、1年の成長を感じます。

「聞く指導」

1学期から先生方は、「まずは、聞く指導をしましょう。」と声をかけあってきました。大人でも聞いてもらえるこんなうれしいのですから、子どもならなおさらと思うのです。

「聞く」というのは、単に「声を聞く」ということだけでなく、「相手の気持ちを受け止める」、「たとえうまく言えなくても言いたいこと（気持ち）をわかってあげようと思って聞く」ということだと思っています。それは相手を思いやる“人柄”が備わってこそできることです。子ども達が自然に話を聞く姿に、「『聞く態度』が、“人柄として”身についてきている」と感じました。

低学年には難しい話だったと思います。それでも、なんとか聞かなければいけないと一生懸命聞いてくれていたのだと思います。それは、「相手のために一生懸命聞いてあげましょう」という担任の先生の教えを一生懸命守ろうとする素直な気持ちの表れにも思えました。